

感染症の三角形



どんな人?

免疫状態は?

脾臓はあるだろうか?
ステロイド・免疫抑制剤は?
HIV 感染症は? 肝不全は?
糖尿病は? . . .

予備力は?

合併疾患は?
ショック状態で後が無い?
年齢は? . . .

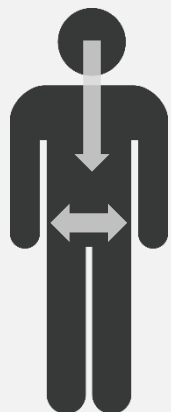
周囲の状況は?

自宅ですりぼち?
高齢者や乳児が近くにいる?
入院中?
施設入所中? . . .



どの臓器?

細菌感染症では、「フォーカス⇒ここで悪さしている!」がはっきりしていることが多い。どこで悪さをしているのかをさがす。同じ菌でも皮膚にいるのと血液中にいるのでは重大度が全く違う(例 黄色ブドウ球菌が皮膚にいても問題ないが血中にいれば大問題)。脳・目の他、膿瘍といった抗菌薬の移行しにくい場所では抗菌薬の選択に注意が必要であったりドレナージのような外科的な処置が必要になることがある。

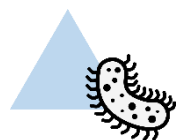


Top to bottom
頭の上から爪先まで

In to out
体の中から外へ

網羅的にフォーカス検索

対象臓器	目安になる症状・所見
脳・髄膜	頭痛・記憶障害・見当識障害・項部硬直・神経学的異常所見
副鼻腔	下を向くと増悪する頭痛・頬の圧痛
中耳	耳痛・聴力低下
口・咽頭	咽頭痛・嚥下痛・咽頭発赤・扁桃への白苔付着・頸部リンパ節腫脹 歯痛・歯肉腫脹(歯槽感染)
肺	咳、呼吸困難、痰、聴診でラ音
消化管・胆道	食欲不振・嘔気・嘔吐・下痢・粘血便・腹痛・腹部圧痛 直腸診で圧痛(肛門周囲膿瘍)
尿路	頻尿・排尿時痛・残尿感・CVA(肋骨脊椎角)叩打痛
生殖器	異常帯下・直腸診で前立腺圧痛・直腸診で子宮頸部痛
皮膚	発赤・疼痛・腫脹 点滴刺入部の発赤(ルート感染)
関節	熱感・疼痛・可動域制限



どんな菌?

以下の要領で信頼できる教科書を見ながら推定する。治療前に「大腸菌かクレブシエラが考えられる!」などの菌名レベルまで考えておくのが大事

大雑把に見積もる

どんな人? どの臓器?
この上記2つで大雑把に分かる

だいたい決まる 治療開始直前

グラム染色

ほぼ確定 数日後

培養結果
定着菌も培養されるため、グラム染色
と併せてみる